

令和 7 年 9 月定例会一般質問発言通告表

発言 順序	8	議席 番号	4	氏名	平 下 尚 己 議員	1 / 1
発 言 項 目				要 旨		答 弁 者
1 認知症になっても変わらない生活ができる富士宮を目指して				9月は「世界アルツハイマー月間」である。認知症であっても活躍している人が増えており、認知症に対する捉え方も大きく変わりつつある。一方、認知症に対する誤解や理解不足から、本人や周囲がつらい思いをしている方もいる。認知症は誰もがなり得る病気であり、認知症になっても、住み慣れた地域で、自分らしく笑顔で暮らすために、富士宮市民みんなが認知症の正しい理解者になることが必要である。今回は、議場全体が「認知症サポーター養成講座」を受講したような時間になることを願い、以下質問する。 (1) 認知症サポーター養成講座が始まった経緯、開催回数、参加人数、参加者の年代を伺う。 (2) 本市は認知症支援について先進的だと言われているが、独自のことはあるのか伺う。 (3) 市民・事業者・行政が一体となり「認知症になっても変わらない生活ができる富士宮」を目指すため、これからの課題を伺う。		市長 副市長 教育長 関係部長